

第 4 回 小平市子ども・子育て審議会 会議録	
日時	令和 5 年 3 月 1 7 日（金）午後 1 時 3 0 分～ 3 時 1 0 分
場所	小平市役所 6 階 大会議室
出席者等	<p>子ども・子育て審議会委員 1 5 人（欠席 1 人）</p> <p>加藤大典、金子恵一、黒田育子、三瓶恵、神保佳世子、高橋稚香、竹内よし子、田畑多賀子、田村寛、中山恵理子、成澤愛、福田陽子、三品佳子、師岡章、山下健（五十音順）</p> <p>事務局 1 1 人</p> <p>子ども家庭部長、子育て支援課長、家庭支援担当課長、子育て支援課長補佐、保育課長、保育課長補佐 2 人、障がい者支援課長、健康推進課長、地域学習支援課長、教育施策推進担当課長</p> <p>傍聴人 1 人</p>
議事	<p>（1）諸報告</p> <p>（2）令和 5 年度児童館事業計画（案）について</p> <p>（3）令和 5 年度学童クラブ事業（案）について</p> <p>（4）令和 5 年度子ども家庭支援センター事業計画（案）について</p> <p>（5）小平市立津田保育園の私立保育園への移行ガイドライン策定について</p> <p>（6）私立幼稚園の新制度への移行について</p> <p>（7）民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 4 年度第 4 回小平市子ども・子育て審議会 会議次第 ・ 資料① 令和 5 年度児童館事業計画（案）について ・ 資料② 令和 5 年度学童クラブ事業（案）について ・ 資料③ 令和 5 年度子ども家庭支援センター事業計画（案）について ・ 資料④-1 小平市立津田保育園の私立保育園への移行ガイドライン策定について（概要） ・ 資料④-2 別紙 移行園開設地イメージ図 ・ 資料④-3 小平市立津田保育園の私立保育園への移行ガイドライン（案） ・ 資料⑤ 私立幼稚園の新制度への移行について ・ 資料⑥ 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について

記録の作成者	子ども家庭部子育て支援課
１．開会	
２．議事	
（１）諸報告	
会長	それでは「諸報告」について、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>報告が２件あります。</p> <p>昨年５月２７日に開催した令和４年度第１回審議会において、まなびの森保育園花小金井の開園時の園庭面積の縮小について、市議会で地方自治法第１００条に基づく調査特別委員会が設置されたことに伴い、本審議会では取り扱わないことを事務局が報告しました。その理由を「調査特別委員会の調査に影響が及ばないように」と説明しましたが、この発言について、その後市議会議長から、「調査特別委員会としては、市の所管部署から本審議会に報告がなされたとしても、当該調査に何ら影響を受けることや妨げとなることはないと考えている」ため、「その旨をお伝えするとともに、発言の訂正を求める」との要望がありましたので、改めて調査特別委員会の見解をお伝えするとともに、事務局の説明が、調査特別委員会が影響があると考えているというように受け止められた場合には、先ほど説明したとおりですので、お詫びして訂正させていただきます。なお、調査特別委員会はまだ調査を終了しておらず、本年３月２０日に開催、２８日の市議会３月定例会最終日に報告を行うと聞いています。委員会のこれまでの会議録は、順次市ホームページの市議会のページに掲載されていますので、詳細はそちらをご覧ください。また、昨年度の第３回審議会において、園庭縮小の件について報告し、その際、当初事業計画どおり設置が進むよう市として指導と進行管理を行うこと、これは東京都児童福祉審議会からの認可承認に当たっての付帯意見ですが、そのようにされていますので、現時点での状況を説明します。事業者には、昨年６月に、園庭面積拡張に向けた地権者との交渉状況の報告と代替策となる戸外活動に係る計画の提出を文書で求めましたが、回答はありませんでした。また、本年１月に１度電話で「地権者との交渉に進捗はない」との連絡がありました。事業者とはこの間、密な連絡を取ることが難しい状況でしたが、引き続き進捗管理に努めます。</p> <p>次に、本年１月２５日に、小平市及び三鷹市において、また、昨日は新たに杉並区</p>

	<p>においても、認可保育園開設事業者である株式会社コスモズによる補助金の不正受給があったと東京新聞で報道された件です。この件については、開設のための施設整備費で補助対象外のものを対象に含めて過大に補助金を請求したとの報告が事業者からありました。過大請求の原因は事業者側にあると認め、全額返還の申し出がありました。社内調査及びその結果を踏まえた詳細な報告書がまだ完了していないとのことで、市としても現時点では対外的な説明ができない状況です。今後、補助金を拠出している国及び東京都と、また、返還額やその根拠等に不明な点がある場合には、警察への相談など適切に対応していきますので、これ以上の説明は控えさせていただきます。</p>
会長	事務局からの説明は終わりました。
(2) 令和 5 年度児童館事業計画(案)について	
会長	令和 5 年度児童館事業案について、事務局の方から説明をお願いします。
事務局	<p>資料①の 3「管理・運営」をご覧ください。</p> <p>児童館は指定管理者制度を導入しており、株式会社明日葉が運営しております。指定管理期間は 5 年間で、令和 5 年 3 月 31 日までとなります。令和 5 月 4 日 1 日からの 5 年間の指定管理者は、議会の承認を経て、現在と同じ株式会社明日葉が指定されました。</p> <p>資料①の 4 以降については小川町二丁目児童館の館長より説明します。</p>
事務局	<p>資料①の 4「令和 5 年度児童館の事業」をご覧ください。</p> <p>令和 5 年度も世代別に実施していく予定です。令和 4 年度は、感染症拡大前に実施していた行事は形式を変えながらも概ね実施することができましたので、令和 5 年度以降も継続して実施していく予定です。</p> <p>次に、資料①の 5(1)「拡充する行事」の説明させていただきます。まず小学生向けの行事です。令和 4 年度小川町二丁目児童館で実施した「子ども会議」を小学生利用者対象とし、市内 3 児童館でも実施します。子どもが意見を述べる場の提供として各児童館で学期に 1 回ずつ行い、児童館の利用に対しての要望や意見を集め、子ども達による児童館運営への参画を目指します。あおぞら児童館については、令和 4 年度小川町一丁目児童館、及び二丁目児童館で実施しました「外遊び活動」を市内 3 児童館でも実施します。それぞれの児童館の近隣公園で月 1 回、レクリエーションを中心とした児童館らしい外遊び活動を行う「あおぞら児童館」を実施していきます。次に中高生向けの行事です。これまで小川町一丁目児童館で中高生利用</p>

	<p>者を対象に実施していた「おがレク Teens」を市内 3 児童館にて「中高生あつまれ」としてスポーツ活動を中心に月 1 回実施していきます。また、中高生の居場所づくりや活動支援を目的とする定期的な活動場所の提供や、学校以外の学びの機会の提供を目的とする中高生向け講座を各館の中高生のニーズに合わせながら、実施していきます。継続行事としては、西田講師（元花小金井南児童館館長）による子育て講座・親子の絆づくりプログラムを実施していきます。新生児向けの BP プログラムの第 2 子向けに昨年度より実施しています。令和 5 年度も BP プログラムともども引き続き実施し、年間 36 回の実施をしていきます。また、BP プログラムの定員から漏れてしまった方を対象に実施しているフォローアッププログラム「ハッピータイム」も継続して実施していきます。「出張子ども広場」事業としては、児童館内にて常設する「子ども広場」の活動の一環として「多世代交流事業」の壁面制作、「出張子ども広場」を実施していきます。出張子ども広場は各児童館より週 1 回、近隣の地域センターにて 10 時～18 時まで活動しており、対象を乳幼児～中学生までとし、市内の常設子ども広場同様の活動を行っています。開設から 2 年ほど経ち、利用者からの認知も広がり、場所によつての差はあるものの利用も増加しています。児童館ともども、地域の子育て支援拠点として活動を継続していきます。</p>
委員	「青空児童館」として行う児童館らしい外遊び活動とは、具体的に教えて下さい。
事務局	基本的には体を動かして遊ぶボール遊び、児童館らしい昔遊びの提供、レクリエーション活動などを行って体を思い切り動かして遊ぶことを予定しています。
委員	中高生向け行事のスポーツを中心とした活動についてですが、体の大きい中高生が児童館でどのようなスポーツで活動しているのかを詳しく教えて下さい。
事務局	主に、バスケットボールやバトミントン、卓球などです。その他、児童館からは、ボッチャー、モルスといったマイナースポーツも提供しています。
委員	<p>コロナ前のように活発に活動が始まるのかと思い、いいことだなと思います。地域の児童館に子どもたちが集まり、若い保護者が集まっていろいろ活動ができるということは、住みよい小平にもつながることと思います。</p> <p>子どもの遊び場については、積極的な PR をしていただくと良いと思います。ホームページにもいろいろと掲載されていると思いますが、幼稚園児の親なども、存在を知っていれば利用するということもあるので、例えば幼稚園経由で配布できるものを作っていただくとか、考えていただくと良いと思います。実際、地域の児童館は、毎回活用する方と、全く活用しない方と極端となっているのではないかと思います。</p>

	<p>ます。</p> <p>また、このような活動を計画されているときに、大体この活動は何人くらい集まるのだろうか、どれくらいの経費をかけるのかということを見込まれていると思いますが、達成率といったことも見ていかないと広がりがなくなるのかなと思います。</p>
事務局	<p>周知については、令和 3 年度から子ども遊びマップを作り、保育園、幼稚園の在園児と小学校の児童に配付しています。小平市の地図の中に、児童館や子ども広場などを示し、また、事業の概要も記載して、読んだ方に来ていただけるよう始めた取組です。そのほか、「小平子育てガイド」を作成し、各事業の紹介をしています。</p>
事務局	<p>行事の達成率についてですが、具体的な数字は、現在出していない状況ですが、毎年新規利用登録についてはデータを取っています。今手元にはありませんが、当館では、毎月およそ 40 から 50 程度の新規登録があり、そこからまた継続して利用していただいているようなイメージです。</p> <p>園児年代の利用は、時間等の関係もあり、なかなか難しい状況ではありますが、行事も、乳幼児向け、園児向けの「スポーツで元気」というイベントも実施しています。その他、土日に利用していただけるようにしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>児童館は小さな子どもが利用するというイメージですが、中高生の利用者を対象とした集まりがあるということは、とても良いのではないかと思います。回数を見ましたら、延べ 36 回、毎月 1 回ということですので、ちょっと少ないかなと思いました。どのようにカウントしているのか教えてください。</p>
事務局	<p>各児童館で毎月 1 回、児童館 3 館分で 36 回となります。</p>
委員	<p>市内 3 カ所の児童館、半径でどのくらい、何キロぐらいの方が主に利用されていますか。また、そこから外れる方たちに対して、今後、児童館を増やすとか、出張サービスを増やすとか、考えられていることがあったら教えて下さい。</p>
事務局	<p>小学生の行動範囲を 2 キロぐらいと考えると、児童館 3 館では市内全域をカバーできないという状況です。</p> <p>そこで、地域センター等において子ども広場を週に約 6 日間開催し、子どもの遊び場、居場所とし、児童館同様、職員が常駐し工作などの活動ができるようになっていきます。</p> <p>その他、先ほど館長から説明がありましたが、出張子ども広場として、週 1 回子ども広場とは別の地域センターで、職員が子どもの居場所を提供する活動をしています。</p>

	このように、児童館と出張子ども広場を組み合わせ、市内全域でサービスを提供し、子どもの遊び場を確保しております。
委員	<p>現在、児童館や地域センターを利用させていただいています。一番上の子どもが今7歳ですが、0歳の頃に比べて情報量が多く、幼稚園や小学校、病院などでも情報がもらえます。子どものいる親が行く場所にたくさん置いてあり、昔に比べて情報がたくさん入るなという印象があります。真ん中の子どもが2歳ですが、上の子の時、出張地域センターは1週間に1回、2時間の開催でしたので、小学生の子どもたちは来られなかったと思います。今は、1週間に1回10時から18時の開催で、小学生の子ども達も行くことが出来るので、楽しみに使わせていただいています。とても楽しいイベントがたくさん行われていますが、正直に言って、利用者は少ないように感じます。</p> <p>地域センターも1週間に1回だけではなく、もっと回数を増やしてもらえたら嬉しいなと思います。先生もいらっしゃるの、安心して子どもを行かせることができます。</p>
事務局	<p>最近情報が増えたという点ですが、第二期小平市子ども・子育て支援事業計画を策定する際にニーズ調査を行いました。そのアンケートの中で、児童館や子ども広場がどこにどれだけあるかわからない、というご意見が多くありました。そのため、周知に力を入れることが必要と考え、子ども遊びマップを作成・配布することといたしました。</p> <p>また、令和2年度まで実施していた子育てふれあい広場は2時間の開催でしたが、出張子ども広場に拡充して8時間程度の開催としており、このような公共施設を活用した子どもの居場所の確保に引き続き努めていきたいと考えています。</p>
会長	今後も拡充あるいは広報等を充実させていただくことを願っております。
(3) 令和5年度学童クラブ事業(案)について	
事務局	<p>資料②令和5年度学童クラブ事業(案)についてご説明申し上げます。</p> <p>1 学童クラブの増でございますが、現在、小平市立小平第二小学校から借用して、学童クラブとして使用している体育館準備室を令和5年4月1日より第二クラブといたします。運営につきましては、引き続き直営による運営を行います。定員は30名でございます。</p> <p>2 指定管理者制度の導入でございますが、小平市立二小学童クラブ第一及び小平市立十三小学童クラブ第一に指定管理者制度を導入いたします。選定は公募選定で</p>

	<p>行いました。定員は二小学童クラブ第一が６０人、十三小学童クラブ第一が４０人でございます。指定管理者はシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社で、指定管理期間は令和５年度から令和９年度までの５年間でございます。</p> <p>３ 民設民営学童クラブの誘致についてですが、小平市の補助を受けて、令和５年度に開設する民設民営学童クラブを募集した結果、ウィズダムアカデミー小平一橋学園校、ウィルキッズフィールド小平花小金井クラブの２クラブの誘致が決定しました。詳細につきましては、資料７のほうでご説明させていただきます。</p> <p>４ 学童クラブ費の見直しでございますが、学童クラブ費は令和元年度に月額５，５００円から月額７，０００円に改定しましたが、学童クラブ費の見直しは定期的に行う必要があると考えており、次回の見直しは令和６年度を予定しております。令和５年度は、保護者等からご意見を伺いながら、適正な保育料について検討してまいります。</p> <p>５ 計画の推進予定でございますが、令和４年度につきましては、民設民営学童クラブを含めた数字ですが、確保数が４４か所で、確保方策の４３か所を上回っております。内数として民設民営学童クラブの施設数も併記しております。令和５年度につきましては、確保方策４４か所に対し、確保数は、二小学童クラブ第二の増と、民設民営学童クラブの新たな開設を含めて４７か所となっております。</p> <p>最後に、入会申請状況についてご報告いたします。令和５年度の入会申請につきましては、令和４年１０月１４日から１２月１日まで募集を行いました。その結果、令和５年度は定員１，７６０人に対し２，３００人が入会する予定でございます。なお、令和４年度の入会人数は２，１５４人でしたので、令和５年度は、令和４年度よりも１５０人ほど増加した結果となっております。</p>
委員	<p>学童クラブは、引き続き直営は市が運営して、指定管理者制度の導入というのは、これはどこかに委託をするということですね。</p> <p>例えば二小学童クラブは第２と第１で直営と指定管理ということになると思いますが、一つは指定管理制度を導入したのはどうしてなのか、何か違いがあるのかということをお聞きます。</p>
事務局	<p>直営クラブは市が職員を配置して運営をしています。指定管理クラブは民間事業者に学童クラブの管理・運営を委託しています。</p> <p>直営クラブと指定管理クラブの大きな違いは、直営クラブの運営は午後６時までですが、指定管理クラブは延長保育が利用でき、午後７時までのお預かりができることです。</p>

	<p>現在、全ての学校で午後7時までの延長保育が利用できる状態ではないため、指定管理者制度を導入できるクラブから、順次、導入しております。保護者が直営クラブと指定管理クラブの両方を選べる状況が望ましいと考えております。</p> <p>今回は、二小学童クラブ第一と十三小学童クラブ第一について指定管理制度を導入し、延長保育を利用できるようにいたしました。</p>
委員	<p>学童クラブの数が増えていくのは、とてもありがたいと思いますが、定員に対して入会の人数が多いということで、保育園を利用されている保護者の方は、学童クラブの利用を希望されるのですが、小学校入学にあたって仕事を少しセーブする保護者が実際にいらっしゃる現状があります。指定管理のところは延長保育があるということで、そこはこれからも引き続きぜひ力を入れていただきたいと思います。もう一点が、障がいのあるお子さんの入所のことです。各学童クラブ、枠というのがあるかと思いますが、障がいのあるお子さんの保護者となると、より学童クラブ選びが大変で難しくなってくると思います。そもそも学校への入学、学童クラブの選び方のところでみなさんかなり迷われています。そのあたりの障がいのあるお子さんの入会状況を教えてくださいませんか。</p>
事務局	<p>まずは、今後も指定管理者制度の導入などにより、多くの方が延長保育のクラブを選べるように推進してまいります。</p> <p>障がい児の受け入れ人数は基本的には2名までですが、指定管理クラブでは弾力的な運用により3名まで受け入れています。またクラブの状況等によっては2名ではなく4名を受け入れているところもあります。</p> <p>学童クラブは、入会申請期間中に申請していただければ、障がい児についても待機なく受け入れておりますが、入会希望の障がい児が受け入れ人数を超える場合は、他クラブの入会をお願いする場合があります。</p>
委員	<p>障がいのあるお子さんが、実際に通っている学校と違う学童に行かなければいけないというケースがどうしてもあると思います。</p> <p>送迎ができなかったり、子ども自身でも移動できなかったりというところがネックになっているようなので、特別通級や特別支援級のある学校にはニーズがそれだけあると思うので、そのあたりも計画的に増やせるなら、定員や職員の加配などが加味されるとよりいいのかなというふうに感じていますので、ぜひご検討いただけたらと思います。</p>

事務局	<p>障がい児の受入れの補足ですが、令和 5 年度は、入会希望の障がい児全てが希望のクラブに入っております。</p> <p>特別支援学級がある学校は障がい児の入会希望が多くなる傾向がありますので、課題として捉えております。</p>
委員	<p>今の質問と少し関連するかと思いますが、通常は、学童クラブの受け入れは 3 年生まで、障がいのある児童の方が 6 年生までということで、定員等の様々な要件もあると思いますが、通常の受入れを例えば 3 年生から 4 年生にする等、何かそういった部分でご検討はありますか。</p>
事務局	<p>現在、3 年生までの受け入れで定員を大きく超えている状況ですので、現時点では、1、2、3 年生を中心に受け入れる考えに変更はありません。</p> <p>高学年の受入れについては、第二期小平市子ども・子育て支援事業計画に記載したとおり、定員を割る学童クラブで、今後の入会児童数の推移や施設・人員体制の状況等を考慮のうえ、柔軟な受入れを検討していきます。</p>
委員	<p>空きがあれば対応ということですが、やはりそうすると地域ごとの公平感といえますか、定員によりますが、受け入れができないと思うので、お住まいの地域によって不公平感がないような状況にできれば望ましいのかなと考えております。</p>
会長	<p>令和 5 年度学童クラブ事業案については、ご了解いただけますでしょうか。</p> <p>では引き続き、延長保育あるいは障がい児枠等々、改善していただくことを期待していきましょう。では続いて、次第の 4、令和 5 年度子ども家庭支援センター事業計画案につきまして、説明をお願いします。</p>
(4) 令和 5 年度子ども家庭支援センター事業計画（案）について	
事務局	<p>説明につきましては、子ども家庭支援センターのセンター長よりご説明させていただきます。</p>
事務局	<p>令和 5 年度の小平市子ども家庭支援センター事業計画案について報告します。お手元の資料③をご覧ください。</p> <p>子ども家庭支援センターは、令和 5 年度も引き続き、0 歳から 18 歳の子どもと家庭に関するあらゆる相談・児童虐待に関する相談を中心に子育てを総合的に支援していきます。これまでコロナ感染症対策により子育て交流ひろばの利用に時間制限など一部制限がありましたが、今後緩和しつつ、市民に安心安全に利用していただくためにも自主的な感染対策に努めていきます。</p> <p>令和 5 年度の事業目標、方針と展開、事業の内容については、資料にあります通り</p>

	<p>例年通り事業を実施していく予定です。</p> <p>本日は、主に令和 4 年度、令和 5 年度の新規事業について説明します。令和 4 年度新規事業として開始した食材配付事業は、令和 5 年度も必要とされる家庭にこどもサポーターを派遣し、一人でも多くの子どもとそこそ家庭の養育状況の改善に繋がるよう、より良い支援に向けて努めていきます。</p> <p>令和 5 年度の新規事業としては、新たにヤングケアラーに関する普及啓発事業を行っていきます。令和 2 年度に国がヤングケアラーに関する全国調査をしたことで、ヤングケアラーが注目されるようになりましたが、この問題は家庭内のデリケートな問題であること、本人や家族に自覚がないこと等といった理由から、支援が必要であっても表面化しにくい構造となっており、ヤングケアラーを早期発見したうえで支援につなげるためには、福祉・介護・医療・教育といった様々な分野が連携し対応することが重要であると考えています。そのため、福祉・介護・医療・教育で直接ご家庭の支援をしている方に向け、ヤングケアラーの研修会を行います。また、子どもたちがヤングケアラーとはどういうものかということを理解するためにも、子どもに届きやすい、例えば簡単なイラストを用いたような動画を作成し、広く子どもたちに届くよう発信していきます。</p> <p>平成 31 年度から社会福祉法人雲柱社が指定管理を受けていた期間が、一旦令和 5 年度で区切りを迎えますが、令和 5 年度も小平市の子ども達、ご家庭が少しでも安心して過ごしていけるよう地域の皆様と連携しながら努めていきたいと願っています。どうぞよろしくお願い致します。</p>
委員	<p>2 ページ目のところの、ティーンズ相談室事業のところ、学校や家庭に居場所のない子どもたちの居場所を確保して提供しつつというところが、すごく大きな意味があると思っています。</p> <p>実際に今、不登校のお子さんなど、ご家族のいろいろな状況の中で支援やサポートが必要なお子さん、ご家庭があると思います。ここには中学生から 18、19 歳と書いてありますが、小学生の不登校のお子さんなどもあると思いますが、そのあたりのお子さんを支援する、利用できる事業はありますか。</p>
事務局	<p>小学生の不登校の支援ですが、子ども家庭支援センターの方で、18 歳までのお子さんの相談、お母さん方も含めて相談に乗っておりますので、小学校のお子さんの不登校などの悩みについては、ティーンズ相談室ではなく、こちらの方で受けて支援をしていきたいと考えております。</p>

委員	<p>実際に今、自分の保育園で地域支援事業をやっていると、不登校のお子さんを抱えた保護者の方からの悩みがすごく寄せられるようになっており、小平市内で不登校のお子さんだったりご家族が相談できたりとか、不登校の子どもたちが行ける場所というのが急務ではなかと思うています。</p> <p>学校運営協議会によると、一定数やはり不登校のお子さんはいると聞いているので、もちろん相談としてはやっていただいて、子ども家庭支援センターだけにということではないのですが、その辺りの仕組みというか、行くと相談ができるようなところがあるといいなというふうに思って、発言させていただきました。</p>
事務局	<p>子ども家庭支援センターを設置している場所に、教育委員会のあゆみ相談室もありますので、連携しながら不登校のお子さんの支援を行っていきたいと考えています。</p>
委員	<p>こちらに食材配付事業ということが書いてありますが、どのような内容かお聞きしたいです。</p>
事務局	<p>子ども家庭支援センターで、関わっている要支援家庭に対して子どもサポーターを派遣し、ご家庭によってどのような対応するかというのは違ってきますが、例えば調理を一緒にしたり、食材やお弁当を届けるなどの支援をしております。</p> <p>主眼を置いているのは、それによりお子さんたちが自立していけるように、それが可能であると思われるご家庭に積極的に事業を展開させていただいています。</p>
委員	<p>どのような年齢の方が多いですか。</p>
事務局	<p>0歳から18歳までとしております。</p>
委員	<p>子育て支援センターにお邪魔させていただくと、一人でもし行ったとしても、職員の方がママ同士をつなげてくださいます。</p> <p>おそらく地域センターや児童館に行く保護者というのは、誰かとちょっとお話ししたい、つながりたいと思っている方もたくさんいると思います。</p> <p>そのように、ちょっと寂しそうだ、一人だなと思う保護者がいると、パッと来てつなげてくださったり話しかけてくださったりするので、行ってよかったなと思います。気持ちが和らいだり、スッと落ち着いて、子育てがもっと楽しくなったりするので、これからも保護者と保護者をつなげるような、そういう活動や目配りをいただけたらありがたいなと思います。</p>
会長	<p>児童館同様、より広報活動を充実していただくとともに、必要な家庭への支援の充実を願っていきましょう。</p>

(5) 小平市立津田保育園の私立保育園への移行ガイドライン策定について	
事務局	<p>公立保育園の私立保育園への移行について、説明します。市では、令和元年9月に策定しました「公立保育園の運営のあり方に関する方針〈改訂版〉」に則り、公立保育園の私立保育園への移行を進めているところです。まず、資料はありませんが、第1回でお伝えしました仲町保育園及び花小金井保育園の移管先法人の募集・選定について、結果を報告します。募集は昨年6月に開始し、提案は8月に締切り、移管先法人選考委員会は9月に開催し、移管先法人は2園とも市内でゆたか保育園を運営している社会福祉法人ゆたか会に決定しました。現在は、保護者・移管先法人・市の三者懇談会を開催し、円滑な移行に向け話し合いを行っているところです。</p> <p>続きまして、市立津田保育園の民間移行についてです。令和4年度は、移行ガイドライン策定に向け、保護者の皆さまと意見交換を行いました。この度、小平市立津田保育園の私立保育園への移行ガイドライン（案）が固まってきましたので、資料に沿って報告します。資料④-1 概要 をご覧ください。なお、本案は、令和5年度当初予算の成立が条件となります。他の議案も予算の成立が条件となりますが、本案は子ども家庭部だけではなく他の部署の予算の成立も条件となることから、申し添えます。まず、「1 目的」ですが、ガイドラインは、移行にあたり、手法や運営主体など、大きな基本的な事項を定めるもので、策定の目的は、大きく3点となります。1点目は「保護者の不安解消」、2点目は「円滑な移行」、3点目は「優良な事業者の参入促進」のために、移行園ごとに策定します。次に、「2 保護者との意見交換」ですが、ガイドラインは、移行園の保護者のご意見、ご要望を踏まえて保護者とともに作成することから、意見交換会を3回実施しました。運営に際しては、保護者と忌憚のない意見交換を行いたいと考え、保護者意見交換会の年間スケジュールを初回に示し、また、配布資料を開催の1週間前までに、要録を開催後1か月目途（次回開催まで）に配布しました。なお、「配布資料」及び「要録」は、保護者に直接配布するとともに、市ホームページにも掲載しています。また、意見交換会に参加できない方からも後日意見募集を行い、意見交換を行いました。次に、「3 今後のスケジュール」ですが、本日「子ども・子育て審議会」にて意見聴取、令和5年3月末に「移行ガイドライン策定」、その後「移行園保護者にガイドライン配布」及び「市ホームページに掲載」を予定しています。なお、市議会厚生委員会に対しては、令和5年3月15日に事務報告済みです。</p> <p>次に、「4 移行園（新園）移管先（建設地）」について、イメージ図を用いて説明し</p>

	<p>ます。資料④-２も合わせてご覧ください。津田保育園は、仲町保育園や花小金井保育園とは異なり、法令等の関係から現地に移行園（新園）を建設することは困難と判断しました。保護者意見交換会で報告した際、保護者からは、指定地域内（津田保育園半径１km圏内）に候補地はあるのか、確実に確保できるのか、現地から近い方がよいなど、様々なご意見をいただきました。保護者との意見交換を踏まえて、市として最大限努力すること、また、園児や保護者の不安を少しでも解消するために、新園開設地として指定地域内にある市有地を確保できるか検討を重ねた結果、建設事業所の業務を見直し、施設の一部改修工事を行うことで確保する一部の市有地を移行園の開設地としました。具体的には、イメージ図のとおりで、津田保育園からは徒歩５分程度の場所で、太枠線内の点線枠内グレー部分、敷地面積９４０㎡程度が移行園の開設地となります。</p> <p>続いては、ガイドライン（案）の内容について、説明します。資料④-３「津田保育園の移行ガイドライン（案）」をご覧ください。ここでは、主なものを説明します。</p> <p>１頁「３ 移行の手法」ですが、事業者の創意工夫を活かして、運営理念に沿った園舎建設を行うことができ、また、運営の柔軟性、迅速性、事業者の自主性がより発揮される「民設民営方式」とします。つづいて、２頁をご覧ください。「４ 移行のスケジュール」ですが、最後の２行で、先ほど説明しました、移行園建設地を建設事業所敷地内とすることについて、「移管先となる私立保育園は、市有地（建設事業所敷地内）に、令和７年４月に先行して開設し、保育環境の変化が園児に与える影響をなるべく低減するよう工夫します。」として記載しています。スケジュールにつきましては、図表のとおり、令和５年度に事業者の公募・選定・解体工事、令和６年度に設計・建設、令和７年度に新園開設し、令和７年度は津田保育園も並行運営となり、令和８年４月に津田保育園の３～５歳児を移転し、津田保育園は閉園となります。図表下の※は、新園の定員を１０８人で設定した場合の津田保育園の令和６年度以降の募集人数を記載しています。</p> <p>つづきまして、「５ 施設と設置・運営主体」についてですが、仲町保育園及び花小金井保育園同様、市有地の売却を前提とすることについて、１・２行目に記載しています。３行目からは、運営主体について記載しており、小平市内において、多様な主体が特色のある保育事業を展開している実績を踏まえ、運営主体は、市有地を無償貸付けした鈴木保育園の時とは異なり、社会福祉法人に限定せず、市内で保育園運営や次世代育成支援に良好な実績のある事業者としています。「６ 移管先法人の選定」では、「（１）移管先法人の選定方法」として、学識経験者、保育経験者等を</p>
--	--

	<p>含めた移管先法人選定組織を設置し、プロポーザル方式により選定すること、３頁となりますが、「（２）選定の基準」として、保護者意見交換会を踏まえ市が設定した条件に基づき、保育サービスを提供できること、「（３）移管先法人の決定と公表」について記載しています。</p> <p>「７ 移管に当たっての運営の条件」では、特徴的なもののみ説明します。まず「（１）保育時間」ですが、公立保育園は午前７時１５分から午後６時１５分までとなりますが、移行園は１５分前倒した午前７時から午後６時までとし、延長保育については、公立保育園は午後７時までのところ、移行園は午後７時３０分以降まで行うこととし、保育サービスの拡充を図っていきます。つづきまして、「（２）受入れ年齢及び定員」は１歳児から５歳児を受け入れ、定員の総数は１０８人以上を予定しています。「（３）」以降は、法令の順守等について記載しています。４頁をご覧ください。</p> <p>「８ 円滑な移行」ですが、「（１）」では、事業者決定後、速やかに、保護者・移管先法人・市の三者による話し合いの場を設定すること、「（２）」では、引継ぎについて現在の津田保育園の一定の保育内容を継承すること、「（３）」では、移行前の３か月程度を目安に、合同保育を実施することを記載しています。「９ 移行後の市の責任と支援体制」についてでは、「（１）」で移行後も一定期間三者の話し合いの場を設置することや、アンケートを実施し、その結果を保護者に開示すること、「（２）」では市によるアフターフォローとして、移行後の市の支援を記載しています。資料の説明は以上となります。最後に、資料はありませんが、公立保育園の民間移行に伴う仲町保育園及び花小金井保育園の令和５年度の定員変更について、説明します。このことは、仲町保育園及び花小金井保育園を、令和６年度に移行園と１年間の並行運営を行うことから、移行園の定員に応じ、令和５年度以降募集人数を調整するものです。仲町保育園については、０歳児は募集を停止することから６人から０人に、１歳児は１６人から６人に、３歳児は３０人から２４人に変更し、総数は１３０人から１０８人となります。花小金井保育園については、１歳児を１５人から６人に変更し、総数は１００人から９１人となります。説明は以上です。</p>
委員	<p>移行の経緯がこうやってはっきりわかるのは、いいことだなと思いました。</p> <p>ご説明がよくわかったので、とてもすっきり理解できましたが、１つ質問ですが、受入れ年齢及び定員というところで、定員の総数は１０８人以上と書いてあるのですが、これは上限というのはいないのでしょうか。</p>
事務局	<p>受入れ定員の総数は、上限を設けていません。</p>

	津田保育園の現在の定員は 120 人となりますが、減少する就学前児童数の状況や、特に 3 から 5 歳児の既存保育園での空き状況を踏まえ 108 人以上と設定しています。また、敷地面積が津田保育園に比べ小さくなることも考慮しています。
委員	<p>保育園の必要性というのも理解していますが、幼稚園協会としましては、やはり幼稚園の園児数は年々減少していて、計画の確保状況としては達成しているというようなお話もあったと思いますが、達成しているわけではなく、各園が定員数を減らして運営しているというような状況があります。</p> <p>そして、各園が定員数を減らして運営しているから成り立っているという現状もあり、3、4、5 歳の保育園の空きが増えている現状について聞いていますので、幼稚園の活用をしていただき、並行して保育園が必要な人は保育園、幼稚園が必要な人は幼稚園というところを、保育課の方でも打ち出していただけると、幼稚園は今、大変厳しい状態にもありまして、預かり事業も保育園並みに夏休み、春休みなどもやっておりますけれども、その辺りのことも踏まえて、小平市はどちらも充実しているというような関係性を保っていただきたいなと考えております。</p>
会長	<p>私の方から一つ、資料の 3 ページ目の 7 の「移管に当たっての運営の条件」の (3)、その冒頭に児童福祉施設最低基準を遵守とありますが、もう 10 年以上前に法令の名称が変わっているので、修正をお願いします。</p> <p>児童福祉施設の設備及び運営に関する基準であり、現場ではまだこの最低基準という言い方が残っているようですが、正式名称を使うべきだと思います。</p> <p>それから、施設の職員配置にそれを重視するということを掲げるのであれば、(5) その他の保育内容の冒頭部分にも保育所保育指針を準拠することと入れるべきと思います。</p> <p>これも告示されていますから、それを踏まえるのは当然のことだと思います。高みの意味ではなくて、掲げるガイドラインという意味ではそのバランスを (5) は取った方がよろしいかなと思います。</p>
(6) 私立幼稚園の新制度への移行について	
事務局	<p>平成 24 年 8 月に成立した「子ども・子育て関連 3 法」に基づき、平成 27 年 4 月に幼児期の教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進める「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、国、東京都において普及促進が図られています。幼稚園は、この「子ども・子育て支援新制度」に基づく、新制度の幼稚園が認定こども園に移行するか、従来の制度のまま幼稚園でいるかを選択することができます</p>

<p>が、新制度に移行すると、従来の保育料を基本とする運営に代わって、国、東京都、市からの施設型給付を受けて運営することとなります。</p> <p>市内では、令和５年３月現在で、私立幼稚園１５園のうち、４園が認定こども園、２園が新制度の幼稚園に移行しています。</p> <p>この度、市内の私立幼稚園から新制度の幼稚園へ移行する御意向をいただいたことから、利用定員の設定等について説明します。</p> <p>仲町にあります小平なみき幼稚園が、新制度への移行を予定しています。利用定員は、３歳から５歳まで、各１００人、合計で３００人を予定しています。移行予定日は令和５年４月１日です。</p> <p>市としては、小平なみき幼稚園の新制度移行により、幼稚園の入園を希望する児童・保護者に対する、将来にわたる児童の受入れ先、必要な受け皿の確保、安定した幼稚園の運営が図られるものと考えています。</p> <p>私立幼稚園の新制度への移行に関する説明は以上ですが、関連する事項で、大きく３点、情報提供があります。</p> <p>１点目は、「令和５年度 保育施設等の定員変更」です。</p> <p>令和５年度は、認定こども園では、学園東町の「めぐみこども園」が定員の変更を行います。具体的には、保育の必要性がなく、教育ニーズが高い、１号認定の利用定員を、３歳を２人、４歳を２人、５歳を１人、合計で５人減員します。保育の必要性のある２号認定は、３歳を２人、４歳を４人、５歳を４人、合計で１０人増員します。めぐみこども園全体の利用定員は、９０人から９５人に変更します。</p> <p>当該園のご理解のもと、この定員変更を行うことで、１号認定の定員は減少するものの、２号認定の定員が拡充され、より保護者のニーズに沿った受入れが確保できるものと考えています。</p> <p>認可保育園では、天神町の「ひめゆり保育園」が０歳児を１２人から９人に、１歳児を１３人から１５人に、２歳児を１５人から１６人に、全体の定員４０人は変更せずに、定員構成を変更します。</p> <p>鈴木町の「すずのき台保育園」が１歳児を１２人から１５人に、２歳児を１８人から２０人に、３歳・４歳・５歳児をそれぞれ３０人から２６人に、全体の定員は１２９人から１２２人に変更します。</p> <p>認可保育園については、入園希望の多い１歳・２歳児の定員を拡充することで、現状の保育ニーズに即した保育の受け皿を確保できるものと考えています。</p> <p>認証保育所では、仲町の「エンゼル保育園小平駅前」から、設置者の体調等の都合</p>
--

	<p>により、保育所を廃止したい旨の意向がありました。現在は、認証を行っている東京都と「エンゼル保育園小平駅前」が協議を行っている状況です。協議の結果については、判明次第報告します。</p> <p>２点目は、「令和５年度認可保育園等の入園申込みの結果」です。</p> <p>申込者数は、入園・転園を含めた参考人数ですが１千５百２人で、昨年の１千５百２１人と比べ、１９人減少しています。</p> <p>現在、１次、２次の入所選考は終了し、内定者には内定通知を送付し、保護者の皆様には、入園に向けた手続き等を進めていただいています。内定に至らなかった方には、入所保留の通知を送付しています。待機児童数の確定は、新年度の４月に入ってからとなりますが、待機児童の解消に向けて、保護者へのご案内など、丁寧に事務を進めていきます。</p> <p>３点目は、「小学校就学前の子どもを対象とした多様な集団活動事業の利用支援事業の実施」です。</p> <p>この事業は、「子ども・子育て支援法」に規定された「地域子ども・子育て支援事業」の１つである「多様な事業者の参入促進・能力活用事業」に本事業が令和３年度に国の制度に追加されたことに伴い、小平市では、今年度から実施するものです。</p> <p>幼児教育・保育の無償化の対象ではない、インターナショナルスクールなどの各種学校や、建物を持たずに自然体験活動を行う団体に通う幼児の保護者の負担軽減を図るため、保護者が支払う保育料等に対して、幼児１人あたり月額２万円を上限とし、保護者に補助します。</p> <p>市内の対象者は、現在のところ、１人ですが、年度末の支給に向けて、事務を進めているところです。</p>
委員	最後の集団活動事業の利用支援事業ですが、補助金の財源を教えてください。
事務局	基本的には国、東京都、市で財源を３分の１ずつ負担し、市として保護者の方に補助金として支給していくこととなります。
(７) 民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について	
事務局	<p>資料⑦民設民営学童クラブ事業費補助金の補助対象事業の決定について、ご説明いたします。</p> <p>１経緯でございますが、学童クラブに対する保護者のニーズは、安全・安心な居場所としての機能だけではなく、午後７時以降の延長保育や学校の長期休業時の弁当の提供など多様化しております。これらの多様なニーズに応えられる放課後の居場所</p>

<p>所を確保するため、令和２年度に民間事業者が設置・運営する民設民営学童クラブへの補助制度を創設いたしました。令和５年度に開設する民設民営学童クラブについて、令和４年６月に補助対象事業を募集した結果、３件の応募があり、市の審査を経て２件の補助決定を行いました。いずれのクラブも、公設学童クラブで提供している事業に加え、多様な活動、多様なサービスの提供を行う予定でございます。</p> <p>２補助対象事業の概要についてですが、資料の通り、２事業の採択をいたしました。場所については、資料⑥参考資料をご覧ください。上の地図は小平市全体の地図です。中央部分に１か所、東側に１か所、民設民営学童クラブを誘致します。中央部分のウィズダムアカデミー小平一橋学園校については、下の左側の地図が拡大図です。東側のウィルキッズフィールド小平花小金井クラブについては、下の右側の地図が拡大図です。資料にお戻りください。</p> <p>表の左側の事業者からご説明します。運営事業者は株式会社ウィズダムアカデミー、学童クラブ名はウィズダムアカデミー小平一橋学園校、所在地は学園東町１丁目、開所予定日は令和５年４月１日、定員数は４５名、入会対象学年は小学１年生から３年生まで、ただし、定員に余裕があるときは６年生まで受入れ、主な入会対象校は記載の１１校、学童クラブ費は週２回までの利用なら７,０００円、週３回以上の利用なら１０,０００円となっております。</p> <p>次に表の右側の事業者についてご説明します。運営事業者は株式会社グローイングアップ、学童クラブ名はウィルキッズフィールド小平花小金井クラブ、所在地は花小金井２丁目、開所予定日は令和５年４月１日、定員数は４０名、入会対象学年は小学１年生から３年生まで、ただし、定員に余裕があるときは６年生まで受入れ、主な入会対象校は記載の３校、学童クラブ費は１０,０００円となっております。</p> <p>現時点での入会予定児童数ですが、ウィズダムアカデミー小平一橋学園校は３５名、ウィルキッズフィールド小平花小金井校は２８名と伺っております。なお、応募件数は３件でございました。また、令和５年度においても、令和６年度に新たに開設する民設民営学童クラブを２クラブ募集する予定です。</p> <p>３補助決定の流れですが、令和４年６月１３日に市ホームページに募集要項を掲載し、募集を開始いたしました。また、６月２０日号の市報にも掲載いたしました。</p> <p>９月１６日に申込み受付を締め切り、審査を行い、１０月６日に補助対象事業の決定をいたしました。１０月１４日に市ホームページに結果を掲載いたしました。</p> <p>続いて、資料７の裏面をご覧ください。</p> <p>これは民設民営学童クラブで行われる事業内容のイメージ図でございます。どのよ</p>
--

	<p>うな活動が行われていて、どこまでが市の補助の範囲内であることを示したものでございます。メインの部分が真ん中の丸で、児童福祉法の放課後児童健全育成事業、小平市で学童クラブ事業と呼んでいるものです。真ん中の丸の中に星印で書いてあるものは、国のガイドラインから抜粋した学童クラブの主要な活動です。小平市の公設学童クラブについては、子供たちはもっぱらこのような活動をしているというものでございます。市の条例の規制内に置かれ、民設民営学童クラブへの補助対象としているものはこの部分となります。次に、左側の丸は多様なサービスで、放課後児童健全育成事業の範囲内ではありますが、市の公設学童クラブで提供されているサービスの上乗せ・拡充や追加のサービスになります。あくまでも市が考える代表的な例について記載しております。これらを提供する、しないは、民間事業者の判断となり、必ず実施しなければならないものではありません。また、ここに書いてある以外のサービスも考えられます。この部分は補助金の対象外となることが多く、かかる費用については保護者の実費負担となります。右側の丸は子どもたちに提供される多様な活動で、放課後児童健全育成事業からは外れるものですが、事業を阻害するものではなく、双方組み合わせて放課後の居場所を形成するものとなります。いわゆる習い事に類するものです。市が考える代表的な例について参考までに記載しております。左側の丸と同様これらを提供する、しないは、民間事業者の判断となり、補助の対象外となります。かかる費用については保護者の実費負担となります。また、これらの多様な活動に携わるスタッフについては、放課後児童健全育成事業の職員とは別枠で雇用して配置する必要があるもので、兼務は認めておりません。</p>
委員	学童クラブで防災や避難訓練などは行っているのでしょうか。
事務局	学童クラブでは年 2 回以上の避難訓練を行っております。
3. 閉会	
会長	<p>以上で、令和 4 年度第 4 回の小平市子ども・子育て審議会の議事はすべて終了いたしましたので、閉会させていただきます。ありがとうございました。</p>